

令和7年度庁議報告事項

第15回庁議（2025年11月11日） 教育委員会事務局子ども・教育政策課

【件名】

令和7年度中野区教育行政に関する点検及び評価（令和6年度分）の結果に関する報告書の提出について

【要旨】（目的・内容・対象・時期・今後の方向等）

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、中野区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について教育に関し学識経験を有する者の知見を活用した点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので、これを議会に提出する。

1 目的

- ・効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに区民への説明責任を果たし、区民に信頼される教育行政を推進する。
- ・令和5年5月に策定した中野区教育ビジョン（第4次）に掲げる取組に係る点検・評価についても、この教育事務の点検・評価と一体的に実施する。

2 実施方法

中野区教育ビジョンに掲げる成果指標及び取組内容の進捗状況等に係る評価票を作成して点検・評価を行うとともに、外部評価委員会を設置し、学識経験者3名の意見を聴取した。

〈令和7年度重点項目一覧〉

視点① 「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた教育		
重点項目	1 確かな学力の定着（知）／教員の授業力向上	
	2 豊かな心を育む教育の充実（徳）	
	3 体力・運動意欲の向上（体）／健康の保持増進	
視点② 自ら考え、学び、行動する人材を育成する教育		
重点項目	5 外国語活動・英語教育の充実	
視点③ 一人ひとりを大切にする教育		
重点項目	1 確かな学力の定着（知）／教員の授業力向上 ※再掲	
重点項目	4 いじめ対策及び不登校傾向の児童・生徒の支援強化	

〈外部評価委員〉

※敬称略、五十音順

氏名	所属等
阿内 春生	早稲田大学教育・総合科学学術院准教授
和泉 徹彦	嘉悦大学経営経済学部教授
小宮山 郁子	目白大学人間学部児童教育学科教授

外部評価委員会は、令和7年7月23日、8月4日、8月19日、10月17日の計4回開催した。

3 点検・評価結果の概要

(学識経験者からの意見等)

① 外部評価による評価・改善

■重点項目1 確かな学力の定着（知）／教員の授業力向上

各学校が区の学力調査結果を適切に分析し、各学校にて生かしていくことができるよう、教育委員会が各学校への支援をさらにリードして進めていってほしい。

■重点項目2 豊かな心を育む教育の充実（徳）

児童・生徒が主体的に学校予算の使い道を決定する取組が今後もより一層実現できるよう、予算の使途を広げていけるとよい。

■重点項目3 体力・運動意欲の向上（体）／健康の保持増進

幼児期の教育から児童期の教育にかけての接続に課題が見られるため、双方が内容の理解を深め、意識して取り組んでもらいたい。

■重点項目4 いじめ対策及び不登校傾向の児童・生徒の支援強化

関係機関につながっておらず、教育機会が確保できていない児童・生徒とその保護者に対する支援にさらにきめ細かく取り組んでもらいたい。

児童・生徒が困った時に相談できる大人が身近にたくさんいることや、相談方法について、小学校低学年のうちから教育活動の中で周知をしていってほしい。

■重点項目5 外国語活動・英語教育の充実

母国語が英語ではない児童・生徒も増えつつある中で、英語に偏りすぎず、様々な文化や生活も含め、幅広い形で学べる環境を作っていくとよい。

② 今後の課題について

■外部への発信

特色ある様々な取組やその成果を、保護者や地域の方々等に対して分かりやすい内容で積極的に発信していくことが課題である。

■成果指標

成果を数値としてあらわすことができるものと、それが難しいものとがある中で、指標の設定や記載を分かりやすく整理した表記にできるとよい。

■関連分野との接合

福祉等、他分野の事業で教育行政につながるものとの接合に課題があるため、引き続き意識して取り組む必要がある。

■教員の働き方改革

他自治体の事例等を踏まえつつ、中野区の実態や状況に合わせ、様々な観点から教員の負担軽減につながる取組を検討し進めていくことが肝要である。

4 今後の予定

令和7年11月 区議会議長あて報告書提出

12月 区議会へ報告（子ども文教委員会）
ホームページにて公表